

協働事業の推進に向けて

～平成18年度協働事業提案に基づく提言～

平成18年11月

柏市協働事業提案選考委員会

協働事業提案選考委員名簿

| | |
|---------|-------------------------------------|
| 渥 美 省 一 | 学識経験者 (元 我孫子市教育委員会 生涯学習推進室長) |
| 渡 辺 元 | 学識経験者 ((特活)市民社会創造ファンド 運営委員・事務局長) |
| 金 井 円 | 公募市民 |
| 松 永 敏 明 | 公募市民 |
| 木 野 麗 子 | グループSEC, 柏わらべうたの会 代表 |
| 星 雅 之 | 柏市 企画部企画調整課 統括リーダー |
| 鬼 澤 徹 雄 | 柏市 市民生活部市民活動推進課 課長 |

協働コーディネーター名簿

| | |
|---------|--|
| 増 田 泰 子 | ふそう会 代表 対話と傾聴の会かしわ 代表 |
| 松 清 智 洋 | かしわ環境ステーション運営協議会情報交流部会長 名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 柏ホテルの会 柏市民活動センター基幹スタッフ |
| 山 本 佳 美 | (特活)ちばMDエコネット 事務局長 (特活)コミュニティアート・ふなばし 副理事長 |

目 次

- 1 はじめに
..... 1 頁 ~
- 2 経過
..... 1 頁 ~
- 3 昨年度からの改善点について
..... 3 頁 ~
- 4 二次選考（最終選考）結果の概要
..... 4 頁 ~
- 5 最終選考を終えて（協働事業提案選考委員会委員長 渥美 省一）
..... 6 頁 ~
- 6 今後の制度運用において重点的に取り組むべき課題
..... 8 頁 ~
- 7 参考資料
 - (1) 一次選考会通過提案への提言（一件別）
..... 11 頁 ~
 - (2) 平成18年度協働事業提案の状況
..... 16 頁 ~

1 はじめに

この提言は，平成18年度協働事業提案について，柏市協働事業提案選考委員会（以下，選考委員会という。）から柏市長に行うものである。

2 経過

平成18年度は，当該制度のさらなる改善と実際に提案制度から誕生した協働事業の見守りに念頭を置きつつ，一連の取り組みを進めてきた。

提案募集告知

【広報かしわ，ホームページ，ダイレクトメールなど】

- ・ 3月15日号 第1面にて特集記事

【説明会】

- ・ 3月28日（火） 午後1時30分～5時まで 参加者18名
- ・ 協働事業提案制度ガイドラインなどにより全体の流れと手続きを説明
- ・ 平成17年度柏市民公益活動補助金の交付団体による成果報告会と同時開催



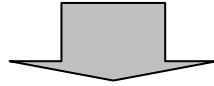
提案募集

- ・ 募集期間は，4月3日～5月30日までの2ヶ月間
募集期間中途において，期限を延長（当初は，5月15日まで）
- ・ 4団体4件の提案



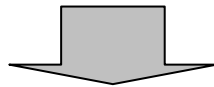
一次選考会

- ・ 6月30日（金） 午前10時～正午
- ・ 選考委員会（渥美省一委員長ほか6名）による書類審査を実施
- ・ 審査にあたっては，提案者及び市関係課に対する事前ヒアリング状況について事務局からの説明を受ける
- ・ 4件の提案中，2件の提案について二次選考会に進むことを決定



調整・協議期間

- ・ 二次選考会（9月29日）までの3ヶ月間
- ・ 提案ごとに，提案者と市関係課による情報収集，打ち合わせ等を通じて，事業化の可能性を検討するとともに課題等の整理を行う
- ・ 協議には，提案者，担当課，協働コーディネーター（介添え役），事務局が参加し，2件の提案で延べ9回開催



二次選考会（最終選考会）

- ・ 9月29日（金）午後1時から5時10分 参加者26名
- ・ 一次選考会を通過した2件の提案の「調整協議期間」の検討経過及び調整結果について，提案者，市関係課，協働コーディネーターにヒアリングを実施
- ・ 各選考委員による個別評価後，合議にて2件の提案についての選考委員会の見解を決定



選考委員会から市長への提言

- ・ 11月14日（火）

3 昨年度からの改善点について

協働事業の推進にあたっては、この制度自体を『成長・発展するシステム』として位置付け、具体的な事例を積み重ねながら、より良い仕組みづくりを進めていく必要がある。

今年度の一連のプロセスは、昨年の流れをベースとしつつ、いくつかの部分で改善を行った。主な改善点は、次のとおりである。

(1) 選考過程の見直し

昨年度は、提案者への書類記入の負担を軽減することを念頭に置いた簡便な応募様式であったため、多くの提案書では、提案者の想いや提案事業で解決すべき課題が若干不明確であった。このため、応募様式において提案内容の全体像が明確に表れるような工夫を図った。また、プレゼンテーションの出来・不出来は、事業内容の評価に直結しやすいこともあるため、一次選考会時におけるプレゼンテーションを実施しないことにした。

なお、プレゼンテーションを補完するものとして、選考委員による質疑を一次選考会の事前に集約し、提案者や関係各課が書面にて回答を提出する方式を試行した。

(2) 事業見守り体制の強化

協働事業提案制度をより実りあるものとしていくためには、今後、協働の効果が発揮された「成功事例」を一つひとつ積み重ね、市民、行政の双方に対し、協働への理解と共感を助長していくことが大切である。

そのためには、この制度を通じて誕生した協働事業に関し、選考委員会や協働コーディネーターによる『見守り』と並行して、実際の協働関係者（提案者、市関係課など）による『ふりかえり』を積み重ねる中で、協働事業の効果をトレースし、効果的に市民にフィードバックしていくことも手法の一つであると考える。

今年度は、事業実施団体（提案者）と事業関係課による事業実施中途における「ふりかえり会議」を導入することとし、新たに協働事業としてスタートした4つの事業について、協働コーディネーターによる仲介のもと、8月に実施したところである。

4 二次選考（最終選考）結果の概要

二次選考会では，4件の提案の内，一次選考会を通過した2件の提案についての最終選考を実施した。

選考委員会での合議結果の概要については，以下のとおりである（提案別の選考結果詳細については，巻末に参考資料として掲載）。

提案事業名：『“ 老いじたく安心相談室 ” の開設』

提案者：(特活)老いじたくあんしんねっと

合議結果

委託という事業の形態ではないが，ニーズ・公益性も高く，提案事業の今後の発展性が認められるので，補助金又は負担金支出による協働事業としての実現を望む。

主な附帯意見

- ・ 事業内容の企画については多少粗いところも見受けられるため，今後，現場の状況を踏まえた上での細部の調整を望む。
- ・ 相談から実行援助までの実施フローについては，市事業関係課との調整協議を深めてほしい。特に，相談者に対する「セカンドオピニオン（当事者がより良い決定をするために，別の者から意見を聴取すること）」的なシステムの確保について検討してもらいたい。
- ・ 提案者においては，将来的な財政基盤の強化を図ることも重要。相談から実行支援へと繋げる際には，実行援助者から提案者への成功報酬が還流していく方式なども方法のひとつではないか。
- ・ 提案者においては，相談対応者の確保，スキルアップに努めてもらいたい。
- ・ 相談から実行援助において，問題発生した場合のマニュアルや事前のチェックシステムにも留意されたい。

提案事業名：『移動支援サービス調査並びに移動制約者と福祉交通への理解を深めるリーフレットの作成及び学習会の開催』

提案者：(特活)NPO支援センターちば

合議結果

多少課題はあるが、公益性・実現性も高く、実施により市民サービスの向上が見込まれるため、実施方法の熟度をより高めることで、委託形態での協働事業として取り組むことが可能になると思われる。

主な附帯意見

- ・事業の実現に向けた前向きな協議を継続してほしい。
- ・千葉県が今年度実施する予定である移動支援サービス事業者のリスト化事業は、“マクロ的かつ行政における内部情動的”なものにしかならないように思われる。したがって、各事業関係課も認識しているように、市民のニーズが高いものである以上、より利用者のニーズにあったものを市としてリスト化することは意義深いものになると考える。
- ・リスト化だけに囚われず、移動支援サービスそのものを市民に啓発していける事業としてほしい。
- ・提案にある小学校での学習会の開催については、既存の福祉教育に対する取り組みとの差別化が明確には認め難い。教育委員会及び各学校、社会福祉協議会と十分に協議されたい。
- ・教育委員会並びに社会福祉協議会においては、既存の福祉教育事業にも提案内容を反映していけるよう、提案者及び関係者との検討を深めてもらいたい。
- ・当初はNPOと行政の想いが完全に一致していなくとも、協働のプロセスを踏む中で互いに成果と苦勞を共有し、地域課題の解決を目指すことが大切。事業の実施にあたっては多少の困難も予測されるが、柏市における今後の協働事業の推進にとっても良い事例となると思われる。

5 最終選考を終えて(協働事業提案選考委員会委員長 渥美 省一)

(1) 今年度の経過のなかで特筆すべき点

今年度の経過の中で注目すべき点について列挙したい。

制度導入の2年目を迎えた今年度は、これまでに明らかになった課題を整理し、協働のプロセス強化に重点を置いた制度改正を行ってきた。

しかしながら、昨年度に比べ提案の件数が激減したことは、若干残念な結果である。

徐々にではあるが、『協働による課題解決』の視点を持った市職員が育ちつつあることは、一連の調整・協議プロセスを通じて感じることができた。

一方、組織(担当部局)として、こうした協働型思考が徹底されている様子が如実に現れてくるケースは、まだまだ乏しいものがある。

選考委員会においては、“協働”そのものに対してそれぞれの想いを込めた率直な意見交換が交わされたことも大変意義深いものである。

提案者が抱える共通する課題(将来的な自立や組織マネジメントなど)の解決に向けた総合的支援のしくみについては、今後、市としての市民公益活動促進施策の方向付けをしていくなかで、引き続き検討を深めていただきたい。

多くの提案において調整・協議に苦慮することとなった背景には、市民、行政の双方ともに日常的な接点が希薄であることが察知される。

(2) 制度全般を振り返って

制度の運用を通じて感じたことについて列挙したい。

今年度の提案事業を検討する中では、市職員の協働に関する誤解や市民公益活動に対する無理解が未だにあったことは否めないものである。

行政側には、“協働”そのものやこの制度への共通理解を高める努力を求めたい。

協働事業の提案に関しては、当面の間、当該制度を中心としたサイクルで検討していくことを基本としつつも、協働事業や市民公益活動の相談機能については、強化することが望ましい。

協働する二者間(提案者と行政)の自己満足に陥らず、広く市民の理解と協力を得ながら事業を推進していくためにも、また、真に社会に必要とされるサービスを協働で生み出していくためにも、協働事業の成案化プロセスを再検討してみる必要もあるのではないかと。

例えば、事業の成案化プロセスにおいて、「公開協議」の場を設けるなどし、実際の市民ニーズを共通のテーブルで確認していくことなども手法の一つだと思われる。

行政が『専門領域』と主張する部門ほど、その公的サービスの内容が硬直化している。今後、この制度には、行政施策に対する客観的な評価を得る機会としての機能を強化するなど、既存事業等の見直しにダイレクトに結びつく部門の創設も必要と考える。

市民のまちづくりへの興味・関心を高めるとともに、他の市民公益活動団体の資質を高める動機付けを図るためにも、制度概要はもとより採択された提案事業の今後の実施状況等について、通年的に広報していくことを望む。

(3) まとめ

2006年度の協働事業提案は、提案応募件数は少なかったものの、提案内容はどれも地域課題を的確に捉えた質の高いものが揃っていた。

『市民セクターによる提案を協働事業として育てる』という試みによるまちづくりに期待する一人としては、こうした提案に対し、行政側がどれだけ真摯に向き合えるかという点に注目していたところである。また、選考委員会においても、個々の協働事業提案の実現に向けて活発な議論をしながら、丁寧に評価・調整・検討を行ってきたものである。

しかし、一方で行政側の協働に関する“想い”の低さも気になったところである。「費用対効果」や「既存事業との関係性・整合性」を考慮していくことは、もちろん大切な事柄ではあるが、市民サイドの公共領域に対する熱の高まりに“冷水を浴びせかけるような”議論は避けたいものである。『パートナーシップ型の行政職員』がなぜ求められ、そうした職員としての資質向上には何が必要なのかを個々の職員が見つめなおしていく機会の必要性を感じる。

今後、個々の提案事業の内容、選考委員会としての見解、制度の改善点など多くの事柄が盛り込まれたこの提言は、市の検討結果を待ち事業の具体化に向けて次の段階へと進む。特に市長をはじめとして関係各課の皆さまには、この提言に対する誠実な判断をお願いするものである。

最後に、選考委員会の各委員、協働コーディネーターが今年度の制度運用に多くの時間と労力を割いてきたことを報告するとともに、これらの方々への感謝の意を表し、まとめとしたい。

6 今後の制度運用において重点的に取り組むべき課題

今年度は、4件の提案のうち2つの提案について、成案化プロセスを踏んできた訳であるが、その中で、当該制度において今後重点的に取り組むべき課題が明らかになってきた。

(1) 提案しやすい仕組みづくり

制度導入の2年目である今年度は、明確に地域課題を浮き彫りにし、その課題解決方法にも工夫を凝らした質の高い提案が多くあった。

しかし、一方で提案件数が激減したことが一つの課題として挙げられる（平成17年度：26件平成18年度：4件）。

原因としては、制度のPR不足や募集時期、応募様式の変更などの間接的な要因も考えられるが、直接的には、制度自体の複雑かつ面倒な一面が敬遠されていることも否めないと思われる。特に、昨年度に採択されなかった事業のリトライ提案がなかった点は、憂慮すべき点である。この点に関しては、実現に至らなかった提案をフォローアップしていける体制の強化が望まれるところである。

別な側面に視点を転じると、「テーマ」を設けない募集方法が、逆に応募のきっかけを作り出していないのではないかといった推測もある。昨年度、選考委員会においては、「行政提案」の導入を提言している。現在の制度は、市民側の発意による提案を想定して基本設計をしているものではあるが、限られた財源のなかでも多様な公共サービスを生み出していくことを求められている自治体としては、行政単独での事業展開に限界を感じつつある分野があることも想定される。これまでも、個々の現場においては、行政側の発意による協働事業が行われてはいるが、この制度による協働事業として総合的・体系的な取り組みを進めることで、多くの市民公益活動団体との一層のパートナーシップへの道が広がることを期待するものである。ただし、行政側によるテーマ設定には、その抽出方法等に十分な検討を加えていく必要があることを申し添える。

なお、今後、制度自体の見直しを進める中では、実際の提案経験者を含めた多くの団体や同様の制度を導入している自治体に対するヒアリングを実施していくことも必要であろう。

(2) サポート体制の強化

この制度は、提案の成案化（ブラッシュアップ）を提案者と市が共通プロセスを踏むことにより、事業化の可能性や実現性を探っていくものであ

る。

しかしながら，一次選考会後の短い調整・協議期間（実質2～3ヶ月）の中で事業化の可能性を検討するとともに課題等を整理していくことがかなり困難な作業であることは，各協働コーディネーターも指摘しているところである。

このため選考委員会としては，提案者が応募の前段階において関連情報を集めると同時に，提案者の想いを確認しながら提案の応募に向けたアドバイスをを行うといった『相談機能』の充実強化を求めるものである。また，協働コーディネーターが個々の提案に関わる時期の見直しも必要であろう。特に，市事業関係課との具体的な調整・協議に入る前に，提案者と協働コーディネーターによる意見交換の機会を設けていくことは必須である。

(3) 協働事業の見守り体制の強化

協働事業のさらなる推進のためには，この制度を通じて事業化が図られた提案の次年度以降の取り組みについて，選考委員会や協働コーディネーターによる見守りをいかに果たし，また，その結果をいかにその後の事業内容に反映させていくかということが重要である。

このため，今年度においては，協働関係者（提案者，市関係課など）による「ふりかえり会議」を実施したところである。

今後は，それぞれの協働事業の現場において，こうした『ふりかえり』の機会が定期的に確保されていくよう，「ふりかえり」手法の確立に向けて，さらなる努力と改善を求めるものである。

なお，こうした結果については，協働事業における効果とともに，市民にフィードバックしていくことも重要であることを申し添える。

(4) 職員意識のさらなる醸成

今年度は，昨年度に多く見られたような『提案に関わる市関係課の“戸惑い”』といった部分は，幾分か薄くなった印象を受ける。

しかしながら，提案者の想いをきちんと受け止め，既存事業との係わり合いを整理し，協働に向けて前向きに検討するという姿勢が見られない市関係課もいくつか見受けられた。

協働は聖域ではなく，また，事業化を果たすことがこの制度の真の目的ではない。こうした制度を運用せずとも，それぞれのセクションにおいて市民の発意をきちんと事業に反映していくことのできる構造が望まれるところである。この制度については，行政内部のタテ割りをつなく，協働のきっかけづくりの一つでしかないということを全職員が再認識していく必

要がある。

このためにも，協働や市民公益活動に関する職員意識の醸成にも，さらなる努力を求めるものである。

7 参考資料

(1) 一次選考会通過提案への提言（一件別）

その1 “ 老いじたく安心相談室 ” の開設

その2 移動支援サービス調査並びに移動制約者と福祉交通への理解を深めるリーフレットの作成及び学習会の開催

(2) 平成18年度 協働事業提案の状況

『一次選考会通過提案への提言：その1』

| | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|---|-----------|----------|--------|---------|-------|---------|-----------|---------|-------|---------|-------|---------|
| 1 提案事業名 | “ 老いじたく安心相談室 ” の開設 | | | | | | | | | | | | |
| 2 提案団体名 | (特活)老いじたくあんしんねっと | | | | | | | | | | | | |
| 3 事業内容 | <p>高齢期を迎えた市民が抱えている老後の生活についての様々な不安（ライフプラン，相続対策等）に関する相談窓口を開設するとともに，セミナー等を実施する。</p> <p>事業実施により，高齢者の将来に対する不安を解消し，充実した高齢期の生活を送るための基盤構築を図る。</p> | | | | | | | | | | | | |
| 4 事業経費 | <p>【概算事業経費 680,000円】</p> <p>内訳</p> <table border="0"> <tr> <td>人件費</td> <td>348,000円</td> <td>謝金，会場費</td> <td>90,000円</td> </tr> <tr> <td>印刷製本費</td> <td>96,000円</td> <td>ホームページ運営費</td> <td>80,000円</td> </tr> <tr> <td>通信運搬費</td> <td>25,600円</td> <td>運営管理費</td> <td>40,400円</td> </tr> </table> | 人件費 | 348,000円 | 謝金，会場費 | 90,000円 | 印刷製本費 | 96,000円 | ホームページ運営費 | 80,000円 | 通信運搬費 | 25,600円 | 運営管理費 | 40,400円 |
| 人件費 | 348,000円 | 謝金，会場費 | 90,000円 | | | | | | | | | | |
| 印刷製本費 | 96,000円 | ホームページ運営費 | 80,000円 | | | | | | | | | | |
| 通信運搬費 | 25,600円 | 運営管理費 | 40,400円 | | | | | | | | | | |
| 5 事業の目的及び効果への主な意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業提案は，これまでの行政施策に予防医学的機能が強化されることや，既存の各種相談窓口のリストラクチャー・ワンステップ化（構造改革に向けた一歩）へのきっかけになり得ることなど，市民の利便性を高める公益性も高いものとする。 | | | | | | | | | | | | |
| 6 事業の内容への主な意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・事業内容の企画については多少粗いところも見受けられるため，今後，現場の状況を踏まえた上での細部の調整を望む。 | | | | | | | | | | | | |
| 7 事業の実施方法・体制への主な意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・相談から実行援助までの実施フローについては，市事業関係課との調整協議を深めてほしい。特に，相談者に対する「セカンドオピニオン（当事者がより良い決定をするために，別の者から意見を聴取すること）」的なシステムの確保について検討してもらいたい。 ・相談シートに関しては，その内容の検討とともに，提案者と市の間での運用方法や取り扱いについて十分に検討を深めてほしい。 ・提案者においては，相談対応者の確保，スキルアップに努めてもらいたい。 ・相談から実行援助において，問題発生した場合のマニュアルや事前のチェックシステムにも留意されたい。 | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|------------------------|-----------------------------------|-------------------|--|--|----------------------|------------------------|------------------------|-------------------|-------|----|----|----|--|------------|--|--|--|--|------|--|--|-----------------------------------|--|
| <p>8 想定される事業経費への主な意見</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・提案者においては、将来的な財政基盤の強化を図ることも重要。相談から実行援助へと繋げる際には、実行援助者から提案者への成功報酬が還流していく方式なども方法のひとつではないか。 ・提案者としては、協働事業の終了後も視野に入れ、NPO法人としての財政面での基盤強化も目指してほしい。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>9 検討結果</p> | <table border="1" data-bbox="440 551 1394 1128"> <tr> <td data-bbox="440 551 600 725"></td> <td data-bbox="600 551 794 725">提案どおり協働事業としての実施が望ましい</td> <td data-bbox="794 551 1002 725">多少課題はあるが熟度を高めることで実施は可能</td> <td data-bbox="1002 551 1209 725">共催，後援，事業協力などの形態で取り組む提案</td> <td data-bbox="1209 551 1394 725">協働事業として取り組むことは難しい</td> </tr> <tr> <td data-bbox="440 725 600 815">選考委員会</td> <td data-bbox="600 725 794 815">2名</td> <td data-bbox="794 725 1002 815">3名</td> <td data-bbox="1002 725 1209 815">2名</td> <td data-bbox="1209 725 1394 815"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="440 815 600 904">協働コーディネーター</td> <td data-bbox="600 815 794 904"></td> <td data-bbox="794 815 1002 904"></td> <td data-bbox="1002 815 1209 904"></td> <td data-bbox="1209 815 1394 904"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="440 904 600 1128">市関係課</td> <td data-bbox="600 904 794 1128"></td> <td data-bbox="794 904 1002 1128"></td> <td data-bbox="1002 904 1209 1128">広報広聴課 高齢者支援課 その他 社会福祉協議会</td> <td data-bbox="1209 904 1394 1128"></td> </tr> </table> <p data-bbox="440 1178 900 1218">〈選考委員会による総合意見〉</p> <p data-bbox="440 1223 1398 1352">委託という事業の形態ではないが、ニーズ・公益性も高く、提案事業の今後の発展性が認められるので、補助金又は負担金支出による協働事業としての実現を望む。</p> | | | | | | 提案どおり協働事業としての実施が望ましい | 多少課題はあるが熟度を高めることで実施は可能 | 共催，後援，事業協力などの形態で取り組む提案 | 協働事業として取り組むことは難しい | 選考委員会 | 2名 | 3名 | 2名 | | 協働コーディネーター | | | | | 市関係課 | | | 広報広聴課 高齢者支援課 その他 社会福祉協議会 | |
| | 提案どおり協働事業としての実施が望ましい | 多少課題はあるが熟度を高めることで実施は可能 | 共催，後援，事業協力などの形態で取り組む提案 | 協働事業として取り組むことは難しい | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 選考委員会 | 2名 | 3名 | 2名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 協働コーディネーター | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 市関係課 | | | 広報広聴課 高齢者支援課 その他 社会福祉協議会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>10 協働事業の主担当として望ましい部署</p> | <p>保健福祉部 高齢者支援課</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

『一次選考会通過提案への提言：その2』

| | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|---|-------|----------|-----|---------|-------|--------|------|--------|-------|---------|-------|---------|
| 1 提案事業名 | 『移動支援サービス調査並びに移動制約者と福祉交通への理解を深めるリーフレットの作成及び学習会の開催』 | | | | | | | | | | | | |
| 2 提案団体名 | (特活)NPO支援センターちば | | | | | | | | | | | | |
| 3 事業内容 | 移動制約者（高齢者，障がい者等）への移動支援サービス（福祉輸送サービス等）を提供している事業者やNPO等のサービス内容をリスト化するとともに，その情報を市民に提供する。また，移動制約者への理解と協力の必要性を学ぶ学習会（体験授業）を小学生を対象として実施する。 | | | | | | | | | | | | |
| 4 事業経費 | <p>【概算事業経費 628,600円】</p> <p>内訳</p> <table border="0" data-bbox="464 770 1362 898"> <tr> <td>人件費</td> <td>391,500円</td> <td>謝金等</td> <td>96,000円</td> </tr> <tr> <td>印刷製本費</td> <td>7,800円</td> <td>消耗品費</td> <td>7,300円</td> </tr> <tr> <td>通信運搬費</td> <td>32,000円</td> <td>運営管理費</td> <td>94,000円</td> </tr> </table> | 人件費 | 391,500円 | 謝金等 | 96,000円 | 印刷製本費 | 7,800円 | 消耗品費 | 7,300円 | 通信運搬費 | 32,000円 | 運営管理費 | 94,000円 |
| 人件費 | 391,500円 | 謝金等 | 96,000円 | | | | | | | | | | |
| 印刷製本費 | 7,800円 | 消耗品費 | 7,300円 | | | | | | | | | | |
| 通信運搬費 | 32,000円 | 運営管理費 | 94,000円 | | | | | | | | | | |
| 5 事業の目的及び効果への主な意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・事業の実現に向けた前向きな協議を継続してほしい。 ・千葉県が今年度実施する予定である移動支援サービス事業者のリスト化事業は，“マクロ的かつ行政における内部情動的”なものにしかならないように思われる。したがって，各事業関係課も認識しているように，市民のニーズが高いものである以上，より利用者のニーズにあったものを市としてリスト化することは意義深いものになると考える。 ・当初はNPOと行政の想いが完全に一致していなくとも，協働のプロセスを踏む中で互いに成果と苦勞を共有し，地域課題の解決を目指すことが大切。事業の実施にあたっては多少の困難も予測されるが，柏市における今後の協働事業の推進にとっても良い事例となると思われる。 | | | | | | | | | | | | |
| 6 事業の内容への主な意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・リスト化だけに囚われず，移動支援サービスそのものを市民に啓発していける事業としてほしい。 ・高齢化が急進する地域での先駆的な試みとして，協働での実施ならでの工夫に向けた双方の努力を期待したい。 ・県のリスト化事業については，引き続き情報収集に努められたい。 | | | | | | | | | | | | |
| 7 事業の実施方法・体制への主な意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・提案にある小学校での学習会の開催については，既存の福祉教育に対する取り組みとの差別化が明確には認め難い。教育委員会及び各学校，社会福祉協議会と十分に協議されたい。 ・教育委員会並びに社会福祉協議会においては，既存の福祉教育事業にも提案内容を反映していけるよう，提案者及び関係者との検討を深めてもらいたい。 | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------|--|------------------------|------------------------|---|--|--|----------------------|------------------------|------------------------|-------------------|-------|----|----|--|--|------------|--|--|--|--|------|--|--|----------------|---|
| 8 想定される事業経費への主な意見 | なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 検討結果 | <table border="1" data-bbox="440 371 1420 1039"> <tr> <td data-bbox="440 371 600 551"></td> <td data-bbox="600 371 794 551">提案どおり協働事業としての実施が望ましい</td> <td data-bbox="794 371 1002 551">多少課題はあるが熟度を高めることで実施は可能</td> <td data-bbox="1002 371 1209 551">共催，後援，事業協力などの形態で取り組む提案</td> <td data-bbox="1209 371 1420 551">協働事業として取り組むことは難しい</td> </tr> <tr> <td data-bbox="440 551 600 640">選考委員会</td> <td data-bbox="600 551 794 640">1名</td> <td data-bbox="794 551 1002 640">6名</td> <td data-bbox="1002 551 1209 640"></td> <td data-bbox="1209 551 1420 640"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="440 640 600 730">協働コーディネーター</td> <td data-bbox="600 640 794 730"></td> <td data-bbox="794 640 1002 730"></td> <td data-bbox="1002 640 1209 730"></td> <td data-bbox="1209 640 1420 730"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="440 730 600 1039">市関係課</td> <td data-bbox="600 730 794 1039"></td> <td data-bbox="794 730 1002 1039"></td> <td data-bbox="1002 730 1209 1039">企画調整課 学校教育課</td> <td data-bbox="1209 730 1420 1039">保健福祉総務課 障害福祉課 指導課 その他 高齢者支援課 社会福祉協議会</td> </tr> </table> <p data-bbox="440 1088 900 1128">〈選考委員会による総合意見〉</p> <p data-bbox="440 1133 1420 1308">多少課題はあるが，公益性・実現性も高く，実施により市民サービスの向上が見込まれるため，実施方法の熟度をより高めることで，委託形態での協働事業として取り組むことが可能になると思われる。</p> | | | | | | 提案どおり協働事業としての実施が望ましい | 多少課題はあるが熟度を高めることで実施は可能 | 共催，後援，事業協力などの形態で取り組む提案 | 協働事業として取り組むことは難しい | 選考委員会 | 1名 | 6名 | | | 協働コーディネーター | | | | | 市関係課 | | | 企画調整課 学校教育課 | 保健福祉総務課 障害福祉課 指導課 その他 高齢者支援課 社会福祉協議会 |
| | 提案どおり協働事業としての実施が望ましい | 多少課題はあるが熟度を高めることで実施は可能 | 共催，後援，事業協力などの形態で取り組む提案 | 協働事業として取り組むことは難しい | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 選考委員会 | 1名 | 6名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 協働コーディネーター | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 市関係課 | | | 企画調整課 学校教育課 | 保健福祉総務課 障害福祉課 指導課 その他 高齢者支援課 社会福祉協議会 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 協働事業の主担当として望ましい部署 | 保健福祉部 保健福祉総務課 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

平成18年度 協働事業提案の状況

| | 提案団体名 | 事業名 | 事業内容 | 事業予算(円) | 市の事業関係課 |
|---|------------------|---|---|---------------------------------------|--|
| 1 | (特活)教育支援三アイの会 | 柏市における，教育支援活動の具体的な展開方法の研究と実践 ～学校での教育活動に参加できない児童生徒への支援組織と活動の展開～ | 1 不登校児童生徒の実態把握 2 教育委員会との連携による「対策協議会の設置 3 不登校児童生徒の居場所となる『夢未来塾』を開設し，学習及び生活支援活動を実施 4 教育を考えるための市民参加型フォーラムなどの開催 | 1,602,000 うち市の負担額 1,527,000 | 指導課 教育研究所 |
| 2 | (特活)せっけんの街 | 子どもの未来のための食育と環境教育 | 循環型社会の確立を目指し，廃食油からのリサイクルせっけんづくりを小学校等における環境学習授業として協働で実施する。 | 597,000 うち市の負担額 447,000 | クリーン推進課 環境保全課 消費生活センター 指導課 |
| 3 | (特活)おいじたくあんしんねっと | 「おいじたくあんしん相談室」の開設 | 1 老後のライフプラン等に関する相談窓口の開設 2 老後のライフプラン等に関するセミナー，出前講座の開催 | 700,000 うち市の負担額 520,000 | 広報広聴課 高齢者支援課 (社会福祉協議会) |
| 4 | (特活)NPO支援センターちば | 移動支援サービス調査並びに移動制約者と福祉交通への理解を深めるリーフレットの作成及び学習会の開催 | 1 移動支援団体のサービス内容の調査を実施するとともに，リスト化し市民に情報提供を行う 2 移動制約者への理解と協力を求めるリーフレットを作成し，学習会を開催。 | 1,503,490 うち市の負担額 1,224,490 | 企画調整課 保健福祉総務課 高齢者支援課 障害福祉課 (社会福祉協議会) 学校教育課 指導課 |

事業予算欄には，応募当初の見積金額を記載している。

